

栃木県北の高原リゾートとして知られる那須町で、ライバル関係を超えた旅館・ホテルやレジャー施設の連携が広がっている。東日本大震災や原子力発電所事故の風評被害で観光客数が落ち込むなか、那須の魅力発信に向けアイデアを結集する協議会が始動。競合施設同士が組んだ企画、地場産食材の新メニュー開発などの試みも相次ぐ。

# 那須の魅力発信 ライバル連携

「夢のコラボです。一緒に冬の那須高原を盛り上げていきましょう」。2日午後、ホテルエピナール那須のロビー。佐野智之総支配人が笑顔で、新入社員に辞令を手渡した。相手は那須どうぶつ王国のアルパカにカピバラ、フンボルトペンギンの計5匹。愛嬌(あいぎょう)たっぷりのおもてなし。湖ファミリー牧場とも連携。どちらかの施設の入場券を持参すれば、もう一方の営業となるどうぶつ王国の入場料も割り引く。「那須ら出張。月曜と金曜の午後元氣! 倍増キャンペーン」にドアマンや案内係として那須に長時間滞在してもらい、できれば宿泊してもらおうという試みだ。

## 動物の助っ人・弁当開発… 震災・原発、客足減に危機感

どうぶつ王国のアルパカなどがホテルエピナール那須に「入社」



「かわいいね」「こっちは動物たちは親子連れに早速囲まれ、記念写真の撮影を求められたり、エサをもらったりと人気が集めていた。

「既存の枠を超えて那須」のPRのために何かできないか。そんな思いから10月下旬に発足したのが「那須元氣プロモーション協議会」。那須観光協会、那須フィルム・コミッション、那須の食を通じた観光に取り組む「なすとらん倶楽部(くらぶ)」の3者を中心に、大手旅行会社も系列を超えて加わった。14日の次回会合では具体的な連携プランを練る。

農家や料理人らでつくる「なすとらん倶楽部」は食の安心をアピールしようと、複数のホテル・レストランで提供してきた「当地ランチメニュー」那須の内弁当(なすとらん)の「新バージョン」の開発にも着手。持ち帰りに変わりつつある。

「神秘的な夜景が広がる那須高原展望台が「恋人の聖地」に選ばれ、御用邸で皇室との縁も深い「ロイヤルリゾート」を前面にブラインドル需要の開拓にも動いてきた那須。震災で仕切り直したとなったが、那須レジャー施設協会の鈴木和也会長は「本来ライバル同士の協力が那須の潜在力を引き出す起爆剤になれば」と期待する。観光地・那須は静かに変わりつつある。

(宇都宮支局 河野俊)

### 北関東

支局 ☎  
水戸 029-2221-3288  
つくば 029-8522-1034  
宇都宮 028-6222-1174  
橋本 027-2233-3114  
115